

【統一様式】

資料1-2

菊池地域医療構想調整会議

菊池郡市医師会立病院が担う 役割について

平成31年3月20日

菊池郡市医師会立病院

1 現状と課題

当院の特徴

- 「かかりつけ医の先生方と連携して、地域の皆さまに信頼され、愛される病院を目指します」を理念とし、主に内科系の疾患を急性期から慢性期まで幅広く診療している。
- 救急告示病院としての救急医療への対応、総合内科・糖尿病内科・腎臓内科・循環器内科・消化器内科・放射線科・整形外科・リハビリテーション科などの14科による専門性の高い診療を提供している。
- 地域の中核病院として、3.0テスラMRI・320列CTなど、高度医療機器、検査部門を備えている。
- 糖尿病センターと透析センターを擁し、専門チームによる高度かつ効率的な診療を行っている。

1 現状と課題

医師会共同利用施設・機能

かかりつけ医を支える医師会の重要業務

- 医師会立病院
- 健診センター
- 検査センター
- 菊池郡市在宅ドクターネットサテライト事務局
- 地域在宅医療サポートセンター



- かかりつけ医と連携して地域に密着し、急性期から慢性期疾患に対応
- 開放型病床の入院機能を有し、様々な診療科へ対応
- 大学病院と連携した専門的な医療の提供
- 在宅医療のハブ病院と事務局機能、介護との連携
- 健診による予防医療への貢献

1 現状と課題

当院の役割

(1) 2次医療圏の中核病院としての役割

- 5事業のうち、救急医療対応(高度急性期病院との連携を含む)
- 5疾病のうち、脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病への対応

(2) 医師会共同利用施設としての役割

- 共同利用病床の運用
- 高額医療機器の導入と地域での共同活用
- 検体検査センターの運用

(3) 地域在宅医療の支援

- 菊池郡市在宅ドクターネットサテライト事務局
- 地域在宅医療サポートセンター(連携型)の運営

1 現状と課題

○病床	124床
一般病棟(入院基本料5)	55床
地域包括ケア病棟(1)	27床
医療療養病棟(1)	42床

○職員数 平成30年12月1日現在 (常勤換算数 小数点切捨て)

区分	医師	看護・介護職員	他専門職員	事務職員	計
常勤	11	93	75	20	199
非常勤	2	13	8	0	23
計	13	106	83	20	222

1 現状と課題

○診療実績(外来・入院診療)

1) 外来診療

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来患者数(名)	19,711	19,974	20,439
紹介率(%)	77.8	75.8	77.3

2) 入院診療

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
病床稼働率(%)	91.7	94.7	95.9
平均在院日数(日)	18.2	17.0	17.9
在宅復帰率(%)	80.4	84.7	83.6

外来・入院診療ともに診療患者数は増加傾向となっている。紹介率や在宅復帰率も高い。

1 現状と課題

○ 診療実績(病床機能別)

病床別入院稼働率

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
一般(10:1)	92.9%	95.2%	98.5%
地域包括1	90.2%	92.4%	92.9%
医療療養	93.5%	92.3%	94.5%
介護療養	91.2%	94.6%	93.9%

全体的に稼働率は高いが、その中でも一般病床の稼働率が高い傾向がある。

1 現状と課題

○ 診療実績(急患対応)

1) 時間外のwalk in + 救急搬送患者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
時間外 外来	734人	683人	902人

2) 予定・緊急入院別患者数と割合

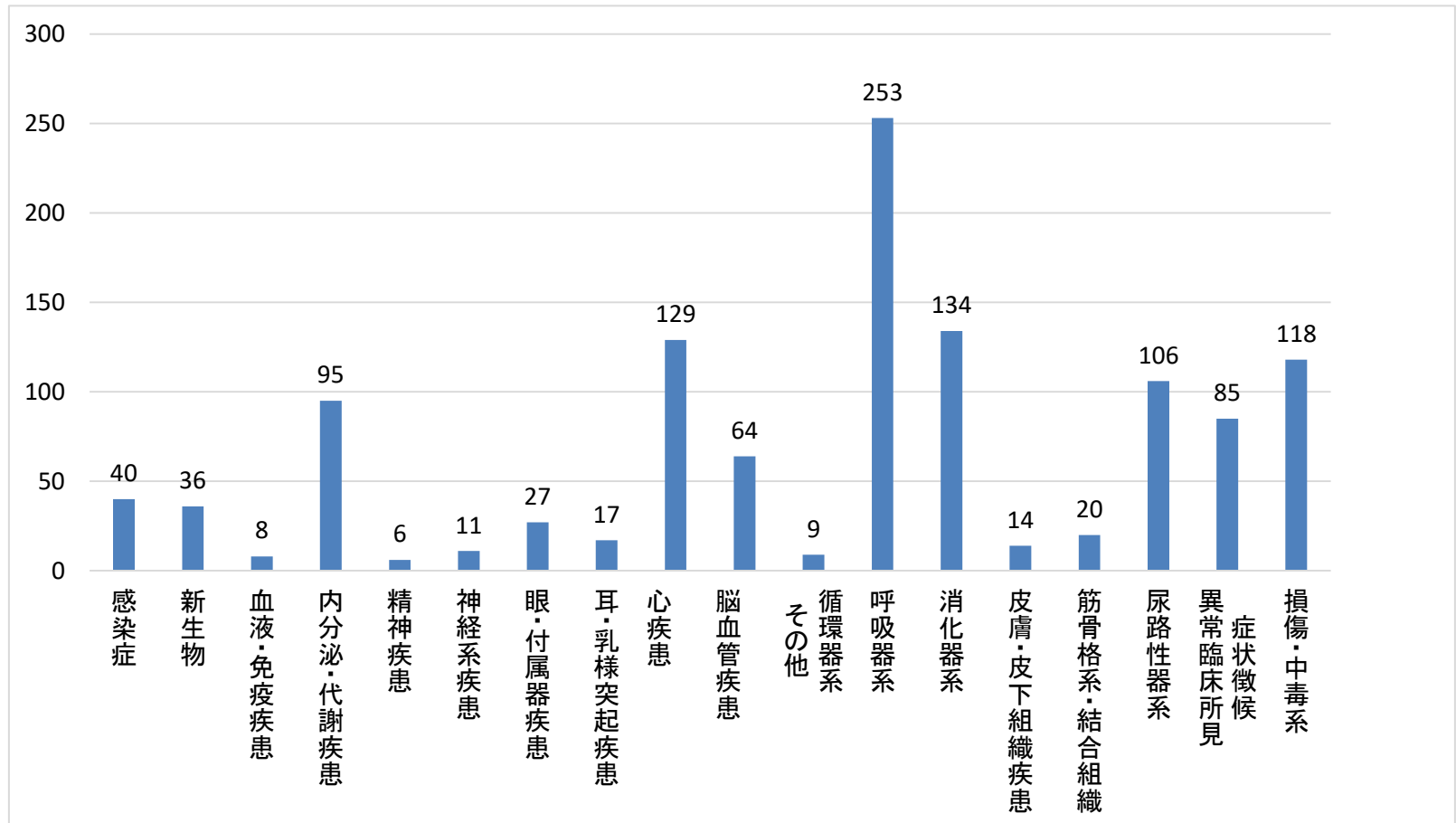
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
予定 入院	188人 (17.6%)	225人 (18.4%)	295人 (24.6%)
緊急 入院	880人 (82.4%)	996人 (81.6%)	904人 (75.4%)
合計	1,068人	1,221人	1,199人

時間外の外来診療患者の増加傾向と緊急入院の割合が多い特徴がある。
また、救急車の受け入れ台数も増加傾向である。

1 現状と課題

○ 診療実績

入院疾患数(平成29年度)



紹介患者を積極的に受け入れ、多様な疾患を診療している。

1 現状と課題

○医師会共同利用数

検体検査数(件)	70,124
CT(件)／MRI(件)	776／1,540
マンモグラフィー(件)	429

○糖尿病センター実績

外来患者数(名)	874
入院患者数(名)	216
透析重症化予防プログラム開始	平成30年4月
糖尿病教室回数	月 1回開催
CDEJ数・CDEK数、CDEK養成事業	15名・11名、4回開催
市民啓発活動	年1回(11月開催)、来場者数 197名(平成30年度)

○透析センター実績

透析患者数(名)／透析導入数(名)／PTA数(件)	135／17／70
---------------------------	-----------

○菊池郡市在宅ドクターネット実績

登録ドクター数(名)／仲介患者数(件)	74／26
---------------------	-------

1 現状と課題

【自施設の現状】

- 外来・入院診療ともに増加している。開放型病床を有する救急告示病院として、地域の救急医療への役割が大きくなっている。また、糖尿病センター（糖尿病学会教育認定施設）や透析センター（透析医学会教育関連施設）の専門診療に対するニーズ、その他の専門医療に対するニーズが高まっている。
- 医師会共同利用施設（放射線診断、検体検査）としての役割も拡大している。
- 在宅医療に関する役割も拡大している（菊池郡市在宅ドクターネットサテライト事務局、地域在宅医療サポートセンター（連携型）の指定機関）。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

政策医療への役割(5疾病・5事業への対応)

- 救急医療・へき地医療
- 脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・がん・認知症

地域医療への役割(地域包括ケアシステムの実現)

- 医師会共同利用施設
- 専門診療
- 在宅医療
- かかりつけ医への支援

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

政策医療への役割1

- 救急医療

断らない救急を目指し、救急車受け入れ数を増加させる。

そのためには、医師数の増加と診療科の拡充が必須である。また、一般病床の確保が重要となる。

- へき地医療

菊池郡市の2市2町のうち、当院の診療圏の菊池市は高齢化率が進んでおり、出張診療などの診療体制を準備する。

市町	人口(H28年)	高齢化率(H28年)
菊池市	47798(-0.58%)	31.6%
合志市	59310(+1.19%)	23.1%
大津町	33765(+1.03%)	21.0%
菊陽町	41399(+1.37%)	19.5%
	182272	29.5%(熊本県) 24.8%(熊本市)

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

政策医療への役割2

- **脳卒中**

現在、非常勤医1名体制であるが、医師の招聘を図り、診療を強化する

- **急性心筋梗塞**

現在、常勤医2名体制であるが、医師増員とスタッフの教育を図り、診療を強化する

- **糖尿病**

第7次菊池地域保健医療計画にある生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進に資するため、専門医による診療はもちろん、糖尿病療養指導士(CDEJ)や多職種によるチーム医療を実践として教育・専門検査・治療の充実を図る

- **がん**

地域で慢性期のがん診療ができる体制を構築する

- **認知症**

増加する認知症患者に対してチーム医療体制を構築する

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

地域医療への役割

- **医師会との密接な連携による、更なる地域共同診療システムの構築**

かかりつけ医と地域の専門医との連携を図る

高額医療機器の導入・更新を行い、地域での共同使用を推進する

検体検査の拡充と正確・迅速化を図る

開放型病床の整備・運用を改善し、利用拡大を図る

医師会会員の病床の有機的な活用を図る

- **専門診療**

透析センター拡充のため、医師数維持とスタッフ教育によるチーム医療の促進を図る

地域のニーズに合った専門診療科の診療拡充を図る

- **在宅医療**

住み慣れた地で、安心かつ快適に自分らしく治療・療養が出来るよう、充実した医療・療養環境を提供する

「きくち圏域みんなの在宅ネットワーク」を推進し、地域在宅医療サポートセンター指定の役割を果たすために、訪問診療・看護との連携を強化し、入退院支援、在宅患者急変時の受入れ体制の充実を図る

2 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【①4機能ごとの病床のあり方 その1】

平成30年度の病床機能報告内容は以下のとおり。 (床)

病床機能	2018年(平成30年)	2025年
高度急性期	—	—
急性期	38	40
回復期	38	40
慢性期	44	40
その他	4	4
合 計	124	124

2 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【①4機能ごとの病床のあり方 その2】

(ア) 急性期病床

救急告示病院として菊池郡市の輪番制のもと、24時間いつでも救急疾患を受け入れることが可能になるように運用の改善(在院日数の短縮)を行う。

(イ) 回復期病床

急性期治療を経過し、病状が安定した患者に対して、在宅復帰に向けたリハビリや退院支援など、効率的かつ密度の高い医療を提供する。また、急性期入院の一部もサブアキュートとしての活用を拡大する。

(ウ) 慢性期病床

長期にわたり医療を必要とする患者に対して、療養上の管理・看護・医学的管理・機能訓練を行い、患者の能力に応じ自立した日常生活動作の回復を図る。介護施設への有機的な連携を構築する。

2 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2019年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、代謝内科、内分泌内科、脂質代謝内科、糖尿病内科、腎臓内科、人工透析内科、循環器内科、消化器内科、放射線科、整形外科、リハビリテーション科	内科、代謝内科、内分泌内科、脂質代謝内科、糖尿病内科、腎臓内科、人工透析内科、循環器内科、消化器内科、放射線科、整形外科、リハビリテーション科	地域のニーズに沿った診療科の維持を継続する。医師確保については派遣元との密接な協力体制を構築する。
新設		総合診療科 神経内科 呼吸器内科 腫瘍内科、外科	地域の政策医療に資するため
廃止		なし	
変更・統合		なし	

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点(2018年7月時点)	2025年
①病床稼働率 (%)	95.4 (平成30年度病床機能報告より) 94 (平成27年～29年度平均)	96.0
②紹介率(%)	77.6 77 (平成27年～29年度平均)	80.0
③逆紹介率(%)	95.3 92.9 (平成27年～29年度平均)	93.0

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

1. 人材の確保

- 医師・看護師・ケアワーカー及び認定資格者等の人材確保を図り、医療・療養環境の充実と医療人の育成に務める
- 働き方改革等の施策に沿う職場環境作りに努め、上記職種の職員が働きやすい職場環境を構築する

2. 人材の育成

- 医学生実習、臨床研修医師の受入れ。
- コメディカル実習生の受入れ。
- 地域の小～高校生の体験学習の受け入れ。

3. 地域連携の強化

- 断らない診療体制を確立する。特に、救急患者についてはトリアージを行い信頼される医療を提供する
- 事業主体の特性を活かし、プライマリーケアとシームレスな連携を高め、更なる地域完結型の医療体制を図る